



「こんにちは 市長です」

3月15日号

「水利権」って聞いたことはありますか。水道水にする前、川を流れる水を使うのにお金を払うんです。とても感謝していることがあります。戸澤久夫前市長が四万川ダムで2万8512 m³/日(約14万人分相当)の水利権を契約してくれていたんです。考えたと思いますよ、50億円ですから。その水利権がなかったなら高額な八ッ場ダムの水利権を買うことになり、水道料金の大幅値上げがあったかもしれません。

子どもの頃、家の裏に井戸を掘って水をくみ上げていました。鉄分が多くて蛇口に布を袋状にして巻き付けていました。半月もたつと袋は茶色くなって交換です。小学校に上がる頃、気付くことなく水道水になっていました。石綿管が全国どこでも使われていて、石綿管を铸铁管に替えるのに多額の投資をしています。国は人口減の時代を迎えて水の使用量も売り上げも減る、水道局の運営が難しくなる、布設替えまで手が回らないと判断しました。水道局の規模拡大による経営改革ができないか模索していました。

みどり市から板倉町まで、3市5町で構成する給水人口45万人の群馬東部水道企業団をつくりました。国は10年間で約120億円の補助金を出す約束をしてくれたのです。本年度の投資額は83億円です。市や町単独ではとてもできない額といえます。安定的においしい水をお届けするため石綿管から铸铁管などに布設替えをしていきます。

給水エリアの水道料金を平準化し、併せて今年の6月検針分から料金改定をすることをご理解ください。いずれ水道事業の運営は全国的な問題になります。(2/24記)